

1995-28

広告批評1月号通関 190号 1996.1.1 発行pp.47 マドラ出版



というわけで、スミッコのほ
うからではありますが、少々
ダイナミックに、多分にオチ
ヤラケチックに、このニッポ
ンの改造を提案したい。そん
なことできっこない、と思う
かもしれませんが、これくら
いしないと、きつと日本は変
わらない。そういう意味では、
大マジメな提案です。

昨日とたいして変わらない
今日ですが、戦後五十一年目
の幕があきました。二十一世
紀ももう目の前です。去年の
ように、正月早々驚かされる
ようなことのないように祈り
たいものですが、天災を人災
が拡大するようなことが起き
ないためにも、今年こそ、本
当の「改革の年」にしたい。



オキナワを 独立国にしよう！

大田サンの言葉と村山サンの言葉は、ぜんぜん違う言葉である。こうまで言葉が通じなくなってしまうたら、お互いに別々の国になったほうがいい。カナダのケベック州は独立しそこなつたけれど、オキナワの独立は、久々に聞く明るいニュースとして、みんなに歓迎されるんじゃないか。

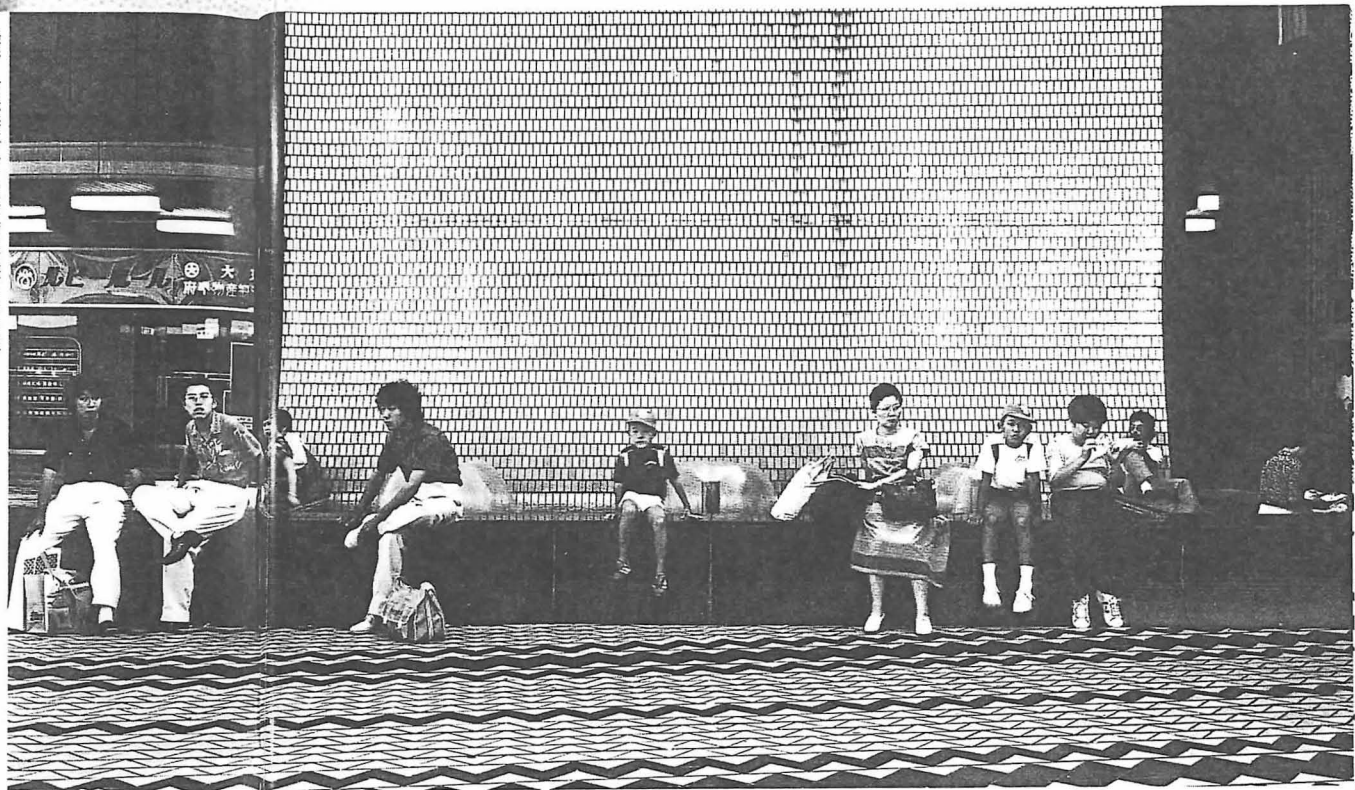
だいたい、戦中から戦後にかけて、オキナワはさんざんな目に遭ってきた。本土復帰後は少しはよくなるかと思つたら、とんでもない、日本の米軍基地の約七〇%が、いままなおオキナワに押しつけられている。「おまえら、いいかげんにせえよ」と、オキナワの人たちのガマン袋がバクハツするのは、いまや、時間のモンダイだったのだ。

こうなつたらもう、「ここはひとつオンビンに」というナアニア主義者の声に耳を傾けてはいけない。「誠意をもってですね、前向きに善処しますんでね」なんて村山サンが言ってきた

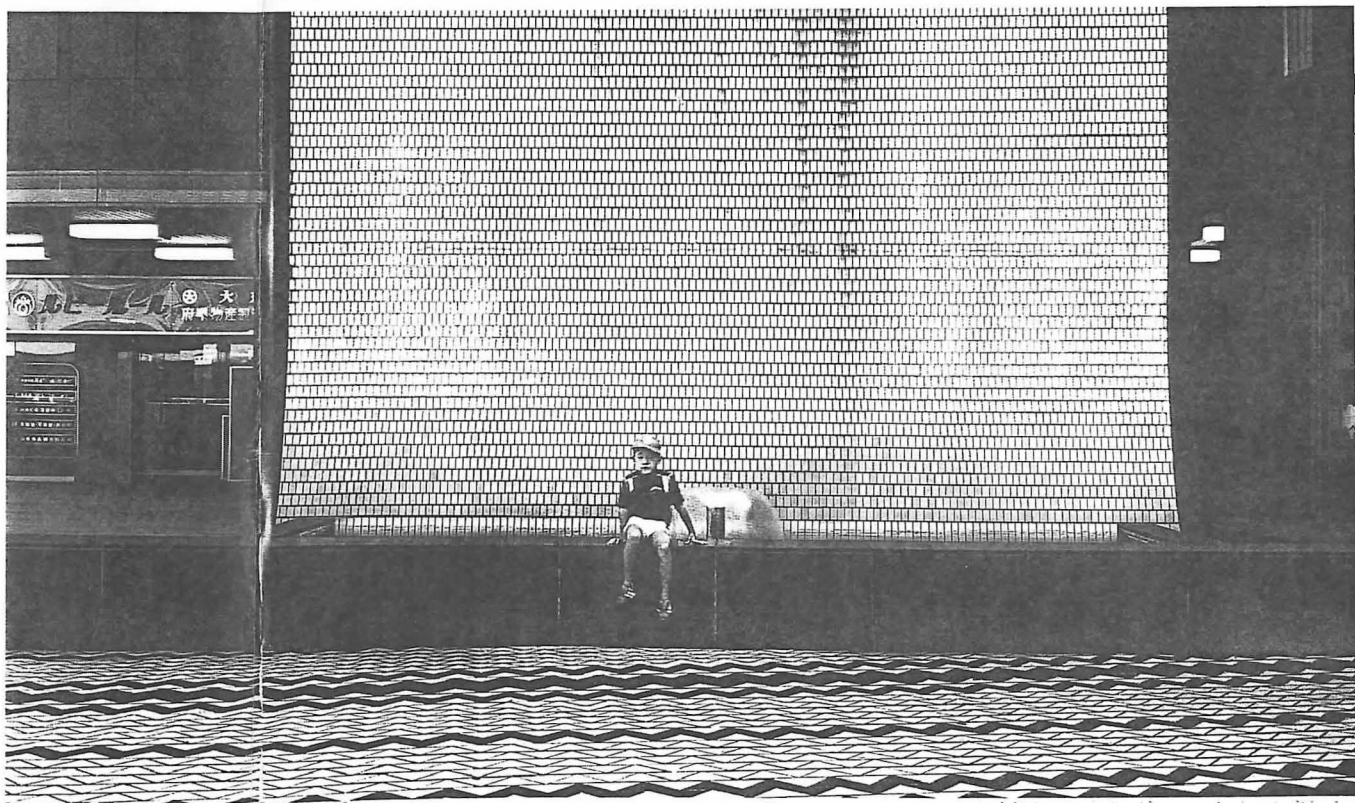
も、それは「何もしませんでしたね」ということだと思つたほうがいい。「同じ日本人じゃありませんか」なんてネコで声で言うヤツもいるだろうが、そのテにも乗らないようにしよう。

「同じ日本人」だなんて言いながら、日本地図ではオキナワをノケモノにして、学級写真を撮るときに病気で休んでいる子みたいに、いつもオキナワは欄外にのせられているではないか。

というわけで、ここはもう、話し合いなんて必要ない。なにがなんでも独立である。で、大田大統領のもと、米軍基地をすべてニッポンに返上したオキナワ共和国は、一〇〇%国際観光保養国家をめざして歩みはじめる。とくに期待したいのは、巨大なカジノ施設の建設で、オキナワは、ラスベガス、モンテカルロにつづく太平洋の一大カジノランドになつてほしいと思う。で、隣国ニッポンの小金持ちから、せっせと金をまきあげて、アカンベエをしてほしい。



撮影：石元泰博（下の写真は修整したもの）



②

少子化傾向がどんどん進む。けっこうなことである。このままいくと、二〇九〇年の日本の総人口は、いまの半分の六千万くらいになるらしい。けっこうなことである。

五年前、そのころ大蔵大臣をしていた橋本龍太郎サンが、「少子化は女性の高学歴化が原因だ」と言ってモンダイになったことがあるけれど、これぞ名言というか、髪のパマーはダメじゃないことを実証した言葉と言っている。そう、世間がよく見えるようになればなるほど、**人口を一〇分の**子どもなんか産んでもつままないワ、という思いがつのるに決まっているのだ。

だから、放っておいても、日本の人口は減る。が、そんな程度の減り方ではまどろっこしいと、われわれは考えている。で、できるだけ早いうちに、人口をいまの一〇分の一、一千万くらいにしたい。そんなムチャな、と言う人もいるだろうが、「一億一心」「欲しがりません勝つまでは」の精神でのぞめば、意外

にカンタンに目標を達成できるのではあるまいか。

「一〇分の一計画」の効用については、くどくど説明するまでもないだろう。とにかくにも、この国は国土の面積に対して人口がやたら多すぎるのである。それが一〇分の一になると、

①「日本の敷地、私の敷地、いとし、いとし私の敷地」なんて、サラリーマンが二十五坪の土地を抱きしめて歌っているような、みつともないCMがなくなる。

人口を一〇分の一に減らそう！

②小学校や中学校が一クラス五人とか三人

になり、究極的には一人の生徒に一人の先生がつくようになっ
ていじめが根絶するし、入学試験なんかなくなるから、塾も
いらなくなり、うちの孫でもラクに東大へ行けるようになる。
といったぐあいに、いま日本がかかえているモンダイのほと
んどは、解決してしまうのである。そのかわり、この国は一時
期、ジイサンバアサンであふれかえるという別のモンダイをか
かえることになるが、ま、そこは、人間辛抱だ。

日本を世界の 租界にしよう！ ③

ソカイと言ったって、疎開じゃない、租界である。租界というのは、むかしの中国の開港場で、外国人が行政権と警察権を持っていた地域のことだ。いまでも上海には、その名残りの場所や建物があつて、観光コースの名所になつてゐる。

ま、ここで言う

租界は、外国人をあそこまで勝手にのさばらせるようなもんじゃない。たとえば東京の臨海副都心なんかを、いい条件で、じゃんじゃん外国に貸してしまうのである。これからは、国家の主権だのヘチマだのと、アホなことを言つてる時代ではない。世界一高い日本の地代を利用して、かせぎまくるのだ。

だいたい、この国は外国人が少なすぎる。近ごろは、中東やアジアからの出稼ぎにくる人がふえたけ

れど、もっと雑多な国の人たちが雑多な文化をそのまま持ちこんできて、みんなワイノワイノと暮らすには、租界をふやすのがいちばんいい。

たとえば、浦安のデイズニールランドと長崎のハウステンボスと志摩半島のスペイン村と横浜の中華街と、そういうのがゴチャゴチャになつてゐる地域が東京湾の埋立地なんかに出現して、朝から晩までいろんな言葉が飛び交つていたら、日本人の国際感覚も少しは磨かれるんじゃないだろうか。

数年前、あの森毅先生が「外国人輸入論」をぶちあげて、世のヒンシュクを買つたことがある。物な





©SHOJI UEDA 「くさくさ」 1949

4 義務教育を三年にしよう！

むかし、学ぶことは楽しいことだった。スクール(学校)はスコール(レジャー)だった。が、いまの小学校や中学校は、知識を強制的に学習させる監獄になった。読み書きを学ぶのはもともと面白い世界へ旅立つためのパスポートを手に入れることであって、そのためには強制もある程度は必要だが、いまやそれが度を越している。で、生徒は囚人になり、先生は看守になった。

監獄だから、いじめが横行する。ま、いじめはこの世界にもあるし、学校にもむかしからあった。が、その度合いが、監獄だからひどい。で、とうとう自殺する子まで、それもあちこちで出るようになった。

このモンダイを解決する「いじめ解決案」も現れ、一件四〇万円で、けっこう繁盛しているという。文部省も、いじめをなくすための検討をそれなりにしているようだが、すべては対症

療法的で、根っこから解決していこうとする姿勢がない。

で、ここはひとつ、義務教育をとことん短縮したい。だいたいは、義務教育は九年がいいなんて根拠はどこにもないし、あったとしても、そのころといまとは、まったく時代が変わっている。だから、こっちは根拠なしに言ってしまうは、三年もあれば十分である。で、そのあとは、好きな学科だけ勉強するか、職業学校に行って好きな技術を身につけるとか、思い思いの道に旅立って行けばいいじゃないか。

戦後、アメリカのマネをして六三制がしかれたとき、当時の生徒たちは一人として、なぜ六三制なのか、それまでの制度よりどう六三制のほうがいいのか、先生からまったく説明されていない。で、改めてお聞きしたいのですが、どうして六三制でなくっちゃいけないんですか、先生。



ガマンの臨界点に達しているのは、米軍基地モンダイをかかえた沖縄の人たちだけじゃない。テレビの前にすわっている人たちも、「いいかげんにせえよ」と、イライラしているに違いない。なんだって、この国のテレビは、こんなノーテンキになっちゃったんだろう。

たとえば、オウム事件の報道ぶりである。特番からワイドショーまで、この一年間にテレビ局がオウム報道に費やした時間は、ほとんど天文学的な数字になる。が、そんなに時間を使って、いったいオウム事件の何が伝えられたのか。

そんなカラ騒ぎを演じながら、オウム裁判を中継しようなんて発想はまったくない。オウム裁判の傍聴券を手に入れるために、何百人とアルバイトを並ばせるよりも、中継するほうがずっと視聴者の期待にそえるというもんだ。

だいたい、裁判所に傍聴席があるということは、原則として

裁判は国民に向かって開かれているということである。ま、テレビのない時代には、見たい人は裁判所へ出向くしかなかったけれど、いまはテレビが傍聴席の延長線上にあるのだ、と言っているだろう。

もちろん、被告の人権モンダイとか、気をつけないといけないことはたくさんある。が、いまずぐ実現はムリでも、この際、オウム裁判をぜひ中継したいという問題提起くらい、なぜテレビ局はしないのか。一局くらいは、そういうことを言い出すテレビ局があっても、バチは当たらないんじゃないか。

これはほんの一例にすぎないけれど、ことほどさように、いまのテレビ局は、マスコミは、ノーテンキになっちゃっている。ジャーナリズムとは何か、という自分への問いかけをも忘れ、あの横山弁護士にさえ、バーカモン！なんてバカにされてヘラヘラしている。

オウム裁判をテレビ中継しよう！。

大雑談

天野祐吉 コラムスト本誌

高橋春男 漫画家

橋爪大三郎 社会学者

高城剛 ハッピーメディアクリエイター

ニッポン

誌上参加
吉村作治 考古学者

誌上参加
赤瀬川原平 作家・画家

再生計画

われわれの我慢は
臨界点に達している

編集部 戦後五十年目の去年は、くしくも日本という国が先送りしてきたさまざまな問題がさまざまな形で一気に噴出し、露わになった年という印象がありました。政治もダメ経済もダメ文化も教育もあやしいとなつたこの先の日本を、それではどうするか。お節介かもしれないが、ここで一つ、みなさんから、具体的なアイデアを出していただいて、「日本」へ提案したいと思っています。そこで、水先案内的といえますが、みなさんのアイデアのツボを刺

- 一、大田知事を首相に！
- 二、みんなで東京から引っ越そう！
- 三、オウム裁判の中継専門局を作ろう！
- 四、義務教育を三年に！
- 五、教室や会議室を円形にしよう！
- 六、国会を廃止しパソコン制直接民主主義を！
- 七、沖縄の米軍基地を東京の都市博用地に誘致しよう！

激するためのたたき台として、七つの提案を、天野さんのほうから、まず発表していただきたいと思っています。

天野 とういうわけで、僕なりに、七つの提案を考えてみました。これです。(左参照)

高橋 もう、いいじゃない、これで。(笑)

天野 まあ、そう言わずに。(笑) まず「大田知事を首相に！」

というのは、日本の政治家の言葉が、どうしようもないくらいに空疎になってしまっている。そんな中で大田さんの言っていることだけは、珍しく一言一言が「言葉」として聞こえてくるんですね。

沖縄問題はいまや安保の是非

にまで波及していますが、その点とはとりあえず置いておくとして、要するに当面の課題は、米軍基地が沖縄にあれば集中してしまっていることでしょう。山崎拓さんなんかは「ニュース23」(TBS)にゲスト出演して、基地の一部を沖縄から別の場所に移すべきだと力説していたけれど、筑紫哲也さんが「山崎さんの地元の福岡はどうですか」って質問したら、「あつ、福岡はダメです」。(笑) 結局自分のところに引き受ける気はないの。

高橋 原発と似てますね。

天野 そういうそらざらしい政治の言葉に、われわれの我慢も、いまや臨界点に達しているんじゃないだろうか。いい加減にしるという気分が、戦後五十年目にして爆発寸前になっていくんじゃないかと思うんです。だから、このさい、大田さんを首相にして、村山さんには沖縄の知事になってもらうことにする。(笑)

高橋 カードの全つかえでやつですね。でも、失礼じゃ

ないかな、沖縄県民に対して。(笑)

天野 それから、これも今年の大テーマである首都移転。東京三百キロ圏の範囲で、水の便がよくて地震に強くなければいけないとか、近くに大都市があつてはいけないとか、いろいろな条件が決まって、あちこちが候補の名乗りを挙げ始めているけれど、僕は首都が移転するよりも、東京に住んでる人たちが引っ越したほうが早いんじゃないかと思うんです。だから、「みんなで東京から引っ越そう！」。東京都民はもう一度、なぜ自分は東京に住んでいるのか、ほかに住みたい場所はないのか、よく考え直してみても、その結果、どこかに引っ越そうという人には政府が補助金を出すことにする。そうやって文化人がいろいろな地方に行けば、地方の文化も盛り上がるしね。高橋さんが鳥取に行けば、鳥取が文化都市になるでしょう。

高橋 どうかかな。ならないと思うなあ。(笑)

天野 マルチメディア時代が



正正

選挙権を選択制に！

政治に無関心になっている、若い人たちに、もっと興味を持って、政治に参加しろというのは、言うほうが間違っていると思いますね。そんな無駄な努力はやめて、投票しなくてもいいという人には、初めから選挙権を放棄してもらえばいい。自分は選挙権を持ちたいという明確な意志を持った人だけが、投票することにすればいいんです。

だから、ほしい人には二十歳まで待たなくても、十八歳から渡してしまおう。そして、自分で登録して、権利を得たからには最低でも二回に一回は選挙に行く。投票への参加率が五〇パーセントを切ったら、選挙権は剥奪されて、その後二年間はもらえないことにする。あるいは、この基準を個人じゃなく、市町村や年代単位にしてもいいですね。年代は二十一歳から二十五歳まで、二十六歳から三十歳までというように輪切りにする。そして、こちらも投票率が五〇パーセントを切ったら、その市町村やその年代の人間は、すべて一

律に投票権を失ってしまう。

このくらい厳しいことをやれば、さすがに投票せざるをえなくなるでしょう。言い替えば、そのくらい徹底的な罰則を設けるくらいでないと、変わらないというところでもある。

それにしても、いたずらに投票率の低さを嘆くようなマスコミの論調は、ちよつとどうかと思いますね。いまだって、五十歳以上の世代の投票率はすごくいいんです。ちゃんと真面目に投票に行っている人だっている。だからこそ、政治について考えもしない、投票をしもしないような人間からは、選挙権を取り上げてしまったほうがいい。意志のない人間にまで、いまは権利を保障する必要はないんです。これは、民主主義の新しい形ですよ。

投票するほうだけでなく選ばれるほうも、これまでの立候補制はやめて、推薦制にしたほうがいいですね。たとえば一人につき千人の推薦がいるということになれば、趣味や独りよがりな立候補しているような人間は、立ちたくてもなかなか立てなくなるでしょう。「出たい人より出したい人」をスローガンじゃなく、システムで実現するんです。(吉村作治)



本格的にやってくれば、東京みたいな狭い場所にみんなできがみついている意味がどれだけある

のか、ということも出てくるだろうし。
高橋 まあ、僕なんかは、フ

アクシミリの性能がもつとよくなって、絵の原稿も送れるようになれば、東京にいる必要もな

いんだけど。

天野 次の「オウム裁判の継専門局を作ろう！」というの

はマスコミの問題なんだけど、実際の裁判が中継できないものだから、ワイドショーなんかはスタジオに法廷のセットを作って、麻原彰晃に似た人間にかつら被せて、ことこまかに再現しようとしたりしてるのね。

高城 ほとんどバラエティとい

か思えない。(笑)
天野 そこまでやるなら、本物を中継してしまっただろうが、ずつといいじゃないかと思うわけ。

高城 アメリカにはコートTVがありますもんね。O.J.シンブソンの裁判なんかも中継されて、すごい視聴率だった。

天野 法廷の中継は人権侵害になるとか、いろいろな問題はあるだろうけど、マスメディアなら少なくとも、テレビで見せるべき裁判があってもいいという問題提起ぐらいはしてもいいんじゃないか。だけど、どのテレビ局も、オウム裁判を中継させろとは言わない。できないものだと、頭から決めてかかっているのね。でも、法廷に傍聴席

があるということとは、法廷の後方は社会に向かって開かれているということでしょう。だって、家庭のテレビが傍聴席になつても、僕はかまわないんじゃないかと思う。
高橋 中継ってオウム裁判に限るんですか。
天野 そのあたりは、あまりこだわってない。
橋爪 限らなくてもいいですね。つまり、日本版コートTVということでしょう。

天野 そうですね。次は教育問題で、「義務教育を三年に！」。そもそも義務教育がなぜ九年なのかなんて、誰も答えられないでしょう。僕は旧制の最後の世代で、一つ下からは新制になったんだけど、なぜ六・三・三・四制がいいのかという説明を、僕は大人から一度も受けた覚えがない。ある日突然、変わったと聞かされただけで。
高橋 確かに根拠はあるんだか、ないんだか。(笑)
天野 精神分析学者の岸田秀さんも、「いまのような情報化時

代の義務教育は三、四年ですむんじゃないか」と言っている。義務教育はより面白い世界へのパスポートを手に入れるための期間であって、言わば、監獄で強制労働をさせられているようなもの。だったら刑期は短いほうがいいに決まっているんだから。だから、この案は岸田さんのご意見をちよつとお借りした。それに、いまはいじめの問題も大きいしね。徳島には、一件四十万円でいじめ退治を請け負う会社があって、けつこう繁盛しているらしい。
高橋 必殺仕掛人みたいな？
(笑)

天野 いじめっ子に脅しをかけたらしい。

高城 もし言うこときかなかつたら、かんざしで刺しちゃうとか。(笑)

天野 最近東京にも進出したらしいですよ、いじめ退治は商売になるといいます。

高城 今度はそれに対抗する会社ができたりして。いじめ退治を退治する。(笑)

天野 「教室や会議室を円形にしよう！」は、なぜ教室が長方形でなくてはならないのか、僕にはナゾなんですな。
高橋 なんて円形がいいのかもわからないけど。(笑)
天野 長方形は、一方通行のコミュニケーションをするのに効率のいい空間なんです。一人対大勢という関係で知識を伝達するには非常に都合がいい。それが円形になってしまえば、当然コミュニケーションの方向性もマルチ型に変わってくるだろう。

高城 先生がノイローゼになったりして。(笑)
高橋 後頭部にハゲのある人はやだろ。(笑) 教壇がグルグル回るのはどう？
高城 金がかかりすぎるんじゃない？(笑)

高橋 「国会を廃止しパソコン制直接民主主義を！」は、つまり、政治家がいなくなるってこと？
天野 そう。国会もあんなしやうがないものならやめちゃう

て、みんなが家からパソコンで
イエス・ノーを投票して、いろ
んなことを決めていけばいい。
そうならば、票の集計をする事
務局だけあればいいわけで、国
費の無駄も減らすことができる
しね。
で、おしまいが「沖縄の米軍
基地を東京の都市博用地に誘致
しよう!」のくらい大胆な発
想をしないと、沖縄の基地は結
局どうにもならないんじゃない
だろうか。

このままでは日本は 坂を転げ落ちていく

編集部 というわけで、一応
天野さんからのアイデアのプレ
ゼンテーションは終わったわけ
ですが、どこからでもけっこう
です、ご意見をお願いできま
すか。

高橋 こういう高尚なテーマ
は難しいなあ。

橋爪 さつきから悩んでいる
んですが、今日の話し合いは、
大真面目にやるんですか? そ
れとも……

高橋 もちろん真面目に決ま
っているじゃないですか。わかる
でしょ、さつきからの雰囲気
を見てれば。

橋爪 ……
高橋 失礼しました。先生は
真面目にやってくください。僕は
突っこみますから。(笑)

高城 じゃあ、僕は、ボケま
す。(笑)

橋爪 よくわかりました。(笑)
では始めてもよろしいですか。

天野 どうぞどうぞ。

橋爪 沖縄がいま、本場に困
った状況にあるのは確かなんで
すが、だからといって、大田知
事を首相にすればいいというこ
となのかどうか。私は沖縄は独
立すればいいと思うんです。そ
もそも昔は独立してたんですか
ら。だけど、薩摩藩に占領され
て、そこから沖縄県に編入され
て、戦後は米軍に占領された。
日本も占領されたんですが、日
本を占領している米軍と沖縄を
占領している米軍は別だったん
ですね。

高橋 そうなんですか?

橋爪 だったようです。だか
ら、連合軍最高司令官マッカー
サーが統治していた「日本」の
中に、沖縄は含まれていなかった。
サンフランシスコ講和条約
の前には、沖縄が独立するとい
う噂が流れたらしいんですが、
あにはからんや、日本だけが独
立して、沖縄は占領されつづけ
た。そこがやっぱり、沖縄にと
っては一つの大きな分岐点だっ
たんですね。

そのあと沖縄は基地の街にな
り、日本の経済成長からも取り
残されたわけです。それで、確
かに基地をどうするかも大切だ
けど、まずは沖縄の振興発展を
助け、尊厳と文化的伝統を取り
戻せるようにするのが先決でし
ょう。

そこで経済について言うと、
いまは日本の関税制度のもと日
本に編入されていますから、そ
の点でとても不利なんです。基
地の中は関税がかからないから
ビールもビールも安い。だから、
経済発展をさせるなら、沖縄全
体を日本の治外法権地区にして

基地自体を沖縄の主権下に置け
ばいい、ということが一つ。

高橋 「大田知事を首相に!」
は、立派な人だから首相につて
ことなんだろうけど、僕は首相
つて、当番制にしたらどうかと
思うんです。

高城 小学校の日直みたい
に?(笑)

天野 いまだって当番制みた
いなものだと言えなくもない。

高橋 そりゃそうだけど、で
も、首相なんてマンシヨンの管
理人みたいなもんだということ
になれば、別に立派な人がなら
なくてもいいじゃないですか。
日本だけは立派じゃない人が首
相でもいいんじゃないかって思
うんだけど、どうでしょうか、
先生のご意見は。(笑)

橋爪 あまり賛成できません
ね。(笑) 阪神大震災が起こった
とき、村山さんは七時に知らせ
を聞いたのに、「あつ、そう」と
言って九時まで寝てたような首
相だったんですよ。

高橋 村山さん以外の日直首
相だったら、もっと手早くやり

ますよ、きつと。(笑)

橋爪 日直の首相が立派なら
いいですが。

高城 でも、そんなに立派な
人っているんですか。

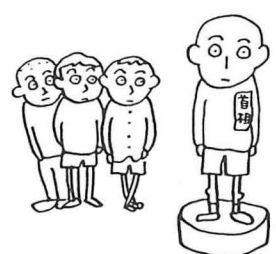
高橋 はつきり言って、いな
いでしょう。

橋爪 ただ、人間というのは
訓練すれば、災害や事件に対し
ても、適切な反応ができるよう
になると思うんです。軍人だっ
て消防士だって警察官だって、
普通の人がオタオタするときに
冷静に的確に行動するのが仕事
なんです。だから、首相とい
うのは普段はボンヤリしてて
もいいけれど、地震が起きたと
きぐらいはテキパキと対応して
ほしい。

高橋 普段ボンヤリしてるか
ら、いざというときもボンヤリ
してるんじゃないですか。(笑)

橋爪 それは、人によるん
です。大石内蔵助のように「昼行
灯」と言われていても、いざと
なると適切な指導力を発揮する
人間もいる。

高橋 だって、あれは装って



るんだもん。村山さんは、根っ
からボンヤリで、装ってるわけ
じゃないんだから。(笑)

橋爪 しかし、いまのところ
誰がやっても同じと言えなくも
ないのは、たぶん、大前提とし
て、日本人の満足度が高いから
なんでしょうね。

高橋 とんでもない。全然満
足してませんよ。(笑)

橋爪 いまの日本は、客観的
に見て、なかなかいい国と思
うんです。豊かだし、安全だし
ね。人びとが政治不信、という
より政治に無関心な理由は、お
そらくそこにある。これが大恐

慌で、拳銃を毎日撃ち合ってい
るような社会だったら、政治に
対してもっと深刻になるでしょ
う。

高橋 かもしれないけど、僕
は満足してません。(笑)

橋爪 もちろん、日本もピー
クは過ぎてますけどね。だから、
このままきちんとしたリーダー
シップを発揮できる人が現われ
なければ、坂を転がるように落
ちるところまで落ちていくと思
います。

高城 国家というのは人間と
同じで、僕は絶対に若返らない
と思ってるんです。一回死ん
で再生することはあっても、老
人が若者に戻ることはない。

高橋 日本は、けっこう年寄
りだもんね。

高城 新陳代謝なんて、いま
やほとんどない。いまアメリカ
ではマイクロソフトなんかを代
表として、新興産業が完全に主
流になっていくけれど、日本は
いまだに老人企業がリーディン
グカンパニーの座に座りつづけ
ている。これじゃやっぱり、若

返りは望めない。
高橋 一回死なないとダメな
んだ。

高城 国家を廃業しちゃえ
ばいいんです。日本国家そのもの
をやめてしまおう。

高橋 君って危険思想の持ち
主だったんだね。(笑)

高城 そのうえで、民族とし
て生きていく。だから、国がど
うのと言う前に、僕らは日本人
としてのアイデンティティを、
一回どこかで確認したほうがい
いんじゃないですか。僕なんか
最近日本人を民族としてだけ
とらえてて、国家としてはほと
んど考えてない。

天野 具体的には、どうやっ
てとらえてるわけ?

高城 日本にいれば曖昧だ
けど、アメリカに行けば僕ははっ
きり日本人です。日本の文化も
育った環境も、自分の中に焼き
こまれていますから。僕は永遠に
日本人で、どこに住んでも、日
本人以外のものになることはな
いと思う。

天野 それは、つまり、国家



徴兵制の復活！

自由というのは、目の前にはないんですよ。自由というのは遠くで輝いているもので、近くに來たらもうなんでもない。それが自由というものなんですよ。遠くにあって手が届かないときほど、自由は実感できる。自由を誰よりありがたく感じられるのは、監獄に入っている囚人だったりしますからね。いまの世の中は自由だというけど、それは理屈上の自由で、実際にはどういんと濁ってますね。いまの若い人たちが実際の自由を味わうには、やっぱり徴兵制がいいんじゃないですか。かつての徴兵制ではない、新しい目的をもった徴兵制。男女平等の時代なんだから、女を差別しちゃいけませんね。ちゃんと徴兵の対象にする。収容先は、

男はプロ野球で女は軍隊というのはどうでしょう。男はプロテスタを受けさせて、百三十キロ以上投げられないやつは兵隊に行く、というのでもいいかもしれないね。サッカーみたいなデイスコ感覚のスポーツじゃなく、旧式のスポ根物語的な世界がいいと思うんです。それも、柔道や剣道みたいな個人競技よりはチームプレイが必要なものの。野球だったら、そういう条件にぴったりくる。とにかく二年か三年、そういうところに強制的に徴兵して、お国のために働けば、少しは自由のありがたさがわかるんじゃないですか。いまって、いわゆる右翼的な体育会系のノリが、ほとんど否定されていますよね。別にそれだけがいいわけじゃないけど、バランスの問題として、左翼ムード一色というのがどうもいけない。だから、こういうふうな、なにか強引で理不尽な徴兵制が、いまの若者には効くんです。(赤瀬川原平)



ようけどね。

橋爪 もちろん、核というの

はどこにあるのか明らかでないところに戦略的価値があるわけ

で、アメリカも日本にあるとは言わないし、まして日本政府に

ら、安保条約は双方のためになっている、というものです。ただし、アメリカはアメリカの利害でものを考えていますから、いくら日本がずっと日米安保で行こうと思っても、ある日向こうから安保条約を払い箱にされる可能性だってなくはない。われわれも、つねに両用の構えで考えていないといけないんです。

高橋 核兵器が飛んできた場合、撃墜できる方法はあるんですか。

橋爪 いわゆる、SDIですね。これはかなり難しいと言われています。当分は無理でしょう。なぜなら、ロシアから飛んでくる核兵器は、アメリカにくまでに三十分かかりますから途中で見つけて撃ち落とそうと思えば、一応物理的には間に合います。でも、日本に向かって、仮に北朝鮮や中国から飛んできたから、十分かそこで届いてしまいうから、まず撃ち落とす余裕はない。

高橋 バリアみたいなのって

できないんですか。飛んできて、バーンとはね返っちゃうような。

橋爪 やっぱ途中で爆発させるしかないでしょうけど、それだけのエネルギーを送れるかどうかが問題ですね。

天野 湾岸戦争のときにパトリオットという追撃ミサイルがありましたね。

橋爪 あれも、一発だったら落とせるかもしれないけど、もし十発飛んできたなら、まず全部撃ち落とすのは無理でしょう。それに、相手のスピードがゆっくりでないと無理。

天野 いま橋爪さんがおっしゃっているようなことを、日本の政治家は国民の前でちゃんと知らないんですね。曖昧なままにしておくから、その結果、どこに問題があるのかさえないから、ない状態で置かれている。ムードとして朝日新聞になってしまいうんです。

橋爪 しょうがないのは自民党だけじゃなく、社会党だって同じです。もし日本には核弾頭

がありますなんて言ったら、社会党は二の句が告げなくなってしまう。「あるだろう」「ありません」「いやあるかも」「ありません」、そうやって政府を追い詰め「ありません」と言わせてなんぼの政党なんですか。

高橋 ただ、安全で平和な国家という点から考えたときに、曖昧さはむしろよかったんじゃないかという気もするんですけどね。曖昧だからこそ、今日まで生きてこれた。

高橋 僕も曖昧は賛成だな。本音と建前を、やっぱり日本人はうまく使い分けていかなきゃいけないと思う。これから日本は世界のいじめられっ子になつて、いじめられつつもフラフラとしぶとく生きのびる方法を探るべきなんじゃないかなあ。

高橋 大金持ちじゃない、中金持ちの老人としてね。

天野 曖昧にしてきたことがいままでは日本にとってプラスになったという見方もあるけれど、それともはや限界にきているんじゃないかという気がしなく

はつきり教えるわけがない。だとしたら、日本の国民として一番賢明なのは、政府がなんと言おうと、核はあるんだという前提で物事を考えることです。そうじゃなかったら、核軍縮の話なんかできっこない。

高橋 やるならやれという、無抵抗主義はどうですか。(笑)

天野 でも、だからといって安保を永久に続けていくのか、という問題は残りますね。

橋爪 これには大きく分けて二つの考え方があると思うんです。一つは朝日新聞風の考え方です。核も悪ければ、安保も自衛隊も悪い。そういうものがなくなったり、縮小されたりすればするほど、日本は平和になるに違いない。

そして、もう一つは日本の一部のリアリストやアメリカの考え方です。日米安保条約がなくなったら、日本はとたんに軍備に力を入れ始めるだろう。遠からず核武装もするだろうし、そうなれば日本の経済力から考えて大変なことになるだろう。だから

もない。でも、それを、高橋さんは、さらに磨こうじゃないかというわけですね。

高橋 そう、さらに熟達する。橋爪 しかし、いじめられつつ生きてきたということにかけては、ユダヤ人になう者はいないでしょう。ユダヤ人というのは狡猾でリアリストだから、一枚むいても二枚むいても奥が出てこないようなところがある。彼らが作るスパイ組織なんてすごいですからね。それに比べて

ら、日本の場合、いじめられっ子として生きていこうというには、あまりにもお人好しだと思える。日本のはいじめの相手に媚を売って、「そんなこと言わずに、いじめないでくださいよ。私だって身内なんだから」みたいにすがりつく、というやり方ですから。

高橋 年増のホステススタイルですね。ほかにやり方はないのかな。

高橋 金で解決するとか。

高橋 軍隊を作らずに、その費用を保身のために使う。僕は

ほんとは自衛隊もいらないと思
ってるんだ。この間の戦争で、
軍隊は持つちゃいけないんだっ
てわかったんだから、世渡りに
熟達して、いじめられつつも上
手にウエーピングして、いじめ
っ子のパンチをボクサーのよう
によけつつ生きていくしかない
と思うんだけど。

橋爪 軍隊を持たずに平和が
保たれればそれに越したことは
ないけれど、歴史上、そういう
例はあまりに少ないんです。ス
イスの永世中立なんかも、あれ
は非常に高度な国防国家でしょ
う。普通の国民がみんな、銃を
持って訓練をしたりしているく
らい。

高橋 鉄壁の守りを作るとい
うのはどう？ いくら爆弾落と
されても大丈夫なくらい、地下
の要塞が完備されているとか。
橋爪 防衛だけで完璧に国を
守り切ろうと思ったら、すごく
コストがかかるんです。攻撃に
対して攻撃で返せるような攻撃
力を持つほうが、ずっと安上が
りですむ。それがパワーバラン

スという考え方ですから。

高橋 だったら日本人の意識
をもっとマゾに変えて、いじめ
られると、うれしがるようにす
る。そうすれば、征服されても
それが喜びになって、一石二鳥
じゃない。(笑)

天野 でも、「朝鮮ではいいこ
としたぜ」なんて言うような人
間のいる国が、マゾになんてな
れるのかなあ。

橋爪 でも、考えようによつ
ては、案外いい考えかもしれない
せんね。だったら思い切って、
租界を作るのが一番いいと思い
ます。韓国なんかはかつて日本
に支配されてプライドを傷つけ
られて、いつまでたっても蒸し
返しているわけだから、逆にい
まの日本で好きなのところを、韓
国の統治下に置く。そこでは日
本は二級市民ですから、好きな
ように社会を作ってください、
学校でも鉄道でも作ってください
いと言って、租界を作ってもら
えばいいんです。

天野 租界募集をするわけ
ですね。



橋爪 このアイデアがなぜい
いかというと、日本に世界中の
租界があれば、どの国も爆弾を
落とせなくなる。

高橋 そうか、それはいい手
だなあ。(笑)

高城 でも、そこまで言うん
だったら、国家が崩壊するべき
では？ 民族さえ残ればいいん
だから。

高橋 でも、オレ、童謡が好
きだから、なんかやだなあ。う
さぎおーいし かのやまう(笑)
橋爪 国際社会とか言っても
すが、世界中の租界が日本にあ
ったら、これほどインターナシ

ヨナルな社会もありませんよ。
語学もただで習えるし。

高橋 世界じゃなくて、租界
だ。(笑)

天野 租界の中のニッポン。
橋爪 そうなれば、地方自治
なんてものも、自動的にできて
しまう。

高城 そして、一気に国際貿
易都市に。

高橋 オレのこと、最初の総
理大臣にしてくれないかな。(笑)

橋爪 ただ、パワーバランス
を考えると、全部アメリカ租界
になってしまふ可能性もありま
すが。

高橋 なつてもかまわないん
じゃないですか。僕が言いたい
のは、征服されたふりして、逆
に征服するってことなんです。
高城 カッコいい。(笑) 肉
を切らせて骨を断つてわけで
すね。

天野 征服するつもりで、実
はただ征服されつばなしだった
りしない？(笑)

高橋 そうしたら、それはそれ
で喜びとして。(笑)

天野 僕らのように戦後民主
主義の中で育ってきた人間は、
非武装中立で、それがダメで外
国にやつつけられてしまうのな
ら、それでも仕方ないんじゃない
か。そんな国もあったんだと
歴史に残ればいいと、どこかで
思っているようなところがあつ
ただけど、そこで生き残る知
恵があるとすれば、租界かもし
れないね。

アルプス型の国か 富士山型の国か

高橋 「東京から引越す」と
いうのは、東京からソカイする
ってやつですね。(笑)

高城 でも、東京って楽しい

からなあ。

天野 だけど、この中央集権
化ぶりは、どこかでどうにかし
ていかないと。

橋爪 みんなで引越すより
は、ワシントンみたいに国会と
霞ヶ関だけ引越すほうが、ず
っと安上がりだと思いますが。

高橋 これも当番制にしたら
どうですか。今は東京、来月
は仙台とかっていうふうな。

高城 それこそお金かかるん
じゃない。しつこいようだけど、
僕にはみんなが東京を離れると
は思えない。よく頭の悪い人が
「マルチメディアが発達すれば、
どこにいたって同じになる」と
言ったりするけれど、そんなこ
となくて、実はネットワークが

発達すればするほど、生で人に
会える価値は大きくなっていく
んですから。

高橋 かえって人に会いたく
なるもんね。

高城 だから、ネットワー
クとフットワークは比例するん
です。ネットワーク社会になれば
なるほど人に会うことがダイヤ
モンドになるから、東京の価値
はますます上がって、新たな地
価高騰を作り出す。ネットワー
ク時代の土地神話、なんてこと
になったりして。

高橋 僕がなんで東京から引
越さないかというのと、うさ
ぎおーいし だからなんです。
(笑) それ以外に、理由はあんま
りない。

高城 高橋さんは東京の生ま
れ？

高橋 八王子なんです。うさ
ぎ、よくいましたから。(笑) 同
じうさぎでも、鳥取で追ううさ
ぎと八王子で追ううさぎじゃ、
やっぱ違う。こういうのって
なんだろう、呪縛されてるん
ですかね、生まれた土地に。

天野 そうなると、橋爪さん
のおっしゃる通りに、行政だけ
をよそに持つていくほうがいい
のかもしれない。国会の答申を
受けて、首都にきてもらおうと
仙台なんかは本気になつてみ
たいだけだね。

人間が引越すことという
と、四国の松山から西に行く
と、きれいな瀬戸内海の海岸がある



天野祐吉
関沢英彦
多田道太郎
山口仲美
〔編著〕

たのしい ネーミング百科

ネーミングは文化である。クスクス読めて、思わず感心するネーミングの文化史の誕生！

A5判・256ページ・1,500円

江戸・明治・大正・昭和
の商品名をめぐり、座談
とコラムで、名付けにま
つわる快楽と苦心、驚く
語源や意外な秘訣を楽し
く解説。二色刷りで傑作
広告の図版多数。

三省堂 (定価は税込み)
東京都千代田区三崎町2-22-14
☎03-3230-9412(販売) 千101

非課税ではなく免税を！

日本でも、オウムの事件で宗教法人の非課税が話題になったけれど、なにも宗教法人に限らない、たとえば福祉法人にだって、アヤシイものはたくさんあるんです。でも、だからといって、いちいちあれがアヤシイ、これがアヤシイと言っているも埒があかない。それよりも、これを機会に、非課税を一切やめるべきでしょう。法人も個人もすべて課税して、その代わり免税制度をもっとしっかり作ることにすればいい。

非課税は何をやっても関知されないけれど、免税は免税措置を申請しなくてははいけません。もしきまこまかい免税制度があつたなら、地下鉄サリン事件だって、もしかしたら防げたかもしれないじゃないですか。あれだけの設備や材料を購入していたんだから、税制上でチェックできていた可能性もある。

非課税の廃止と免税制度については、いままでも何度か、国会でも討論されているんです。ただ、必ず潰されてしまう。その理由は、一つは煩雑だということ。一つひとつチェックするとなれば、いまだ大蔵省の人数では、とても足りないという。でも、足りないなら増やせばいいんです。北海道や沖縄の開発なんてものはやめて、その担当の人間を審査に回せばいい。

だいたい「開発」なんて名目をつけること自体、北海道や沖縄を差別していることなんですからね。

非課税によって、国庫はすいぶんソンをしていると思います。宗教法人の寄付だけでなく、政治家のパイだって、集めたお金はなぜか非課税なんです。非課税をやめれば、あつという間に国庫や予算は増えて、消費税率を上げる必要なんてなくなりますよ。せっかく国会で討論されているんだから、われわれはもっと騒ぐべきです。沖縄だって、少女暴行事件をきっかけにここまで大騒ぎになって、安保論議にまで発展しているんだから、みんなが問題にすれば変わらざるえなくなる。公共の福祉にかかわること、未来の日本を作るようなことにこそ、税金が優遇されなくてはおかしい。

文化を育てようと思ったら、映画も演劇もオペラも、徹底的に免税するべきです。三億円の製作費で映画を撮ると申請されて、内容がポルノだったら税金をがっちりかければいいし、青少年の情操を育成するようなものだったら、免税すればいい。だいたい映画には一本一税金をかけるくせに、なぜテレビ番組にはかからないのか。これだって、一本一審査して、ちゃんとしたものは免税、くだらないものには課税という基準を設ければ、いまみたいに夜中までバカバカしい番組がたれ流されている状況も、少しはましになると思うんだけどね。

(吉村作治)

んです。漁師町なんだけど、もし東京からいろいろな芸術家、たとえば高橋さんのような人が来てくれるんだしたら、土地をべらぼうに安く提供するって言うてますよ。どうですか？ 景色はきれいだし、魚は安くうまい。

高橋 そんな生活、退屈じゃないですか。

橋爪 それは一年中いなくちゃいけないと思うからいけないんで、セカンドハウスにすればいいんです。夏休みにリフレッシュするとか、お正月はこもるとか。

高橋 贅沢だなあ。

橋爪 贅沢です。だから、そういうことができるのは、所得の高い人です。そして、所得の高い人は、地方都市にとってはおおいに魅力がある。だって、そういう人が来てくれれば、地元の料亭でパーッとごはんを食べたりして、たくさんお金を落としてくれるわけですからね。

高城 でも、だったら、いまは海外に行ったほうが安いのかも

しれない。

天野 海外でもいいんです。とにかくみんな、農耕民族みたいにかつ所にしがみつくことはない。高城さんは、もう実践してるみたいだね。

高城 僕は、あつちこつちに住むんじゃないかって、移動家なんです。一年のうち百五十日くらいは移動してる。

高橋 だったら、日本だとか外国だとか言つてないで、地球外に行つたらどうですか。白鳥座とか。(笑)

高城 宇宙にはすつごく行きたい。インターネットに宇宙飛行士募集のページがあつてね、応募したんだけど、書類選考で見事に落ちて、審査にも呼んでもらえなかった。(笑) まあ、そんな話はさておき、とにかく僕は移動しながら暮らしているんです。

天野 場所にはこだわらないんだ。

高城 こだわりませんねえ。高橋 そういう人もいるだろうけど、僕みたいな人間もいる

んだよね。自分の居場所を決めちゃつて、ほかのところには一切行かない。だって、僕、日本を出たことないですもん。

高城 えーっ。

高橋 パスポートも持つてない。外人があんまり好きじゃないのね。自分で一人鎖国して言うてるんですけど。(笑) そろそろ出島でも作るのかな。

高城 僕は青山に事務所があるんだけど、環七の向こうに行くより海外に行くほうが多い。

高橋 つまり、隣の家に行くように、外国に行くわけでしょう。僕なんか大変ですよ、新宿より先、東京方面に行けないんですから。空気が違うから、咳こんじやつたりして、胸が痛くなる。(笑)

高城 そこまでいくと、けっこう問題かもしれない。

高橋 きつと江戸時代は農民かなにかだったんだと思う。あのころって、よその土地に出るのに、いちいち手続きが必要だったじゃないですか。

天野 たとえばイタリアなん

かだと、フィレンツェとかベニスとかローマとかミラノとか、独自の文化を持った都市がいるところあるでしょう。ちょうど個人的な峰々が集まってアルプスができているような感じなんだけど、日本の場合にはちょうど富士山の頂きみたいに東京があつて、あとの都市は裾野のようになつていっている。どつちがいいかといえば、僕はアルプス型の国のほうがいいんじゃないかと思うんだけど。

高橋 富士山型の国というのは、日本だけなんです。

橋爪 韓国なんかもそうでしょう。ソウルの集中度たるやすごい。あとはかううじて釜山があるぐらい。でも、日本だって江戸が人工的にできるまでは、国ごとに独立して戦国時代を繰り広げていたんですからね。

私の意見は、もし遷都するなら政治の中心である国会と霞ヶ関が移るべきだし、彼らが赤坂や銀座に繰り出しては、企業とつるんでなんかやるというのをなくするのが、まずポイントの一

省庁を民営化せよ！

省庁というのは、サービス業なんです。だから、JRにしてもNTTにしても、民営化されてから、ずっとよくなったでしょう。民間になれば大臣は社長になって、国民の血税を勝手に使うようなこともなくなる。いまよりずっと、風通しがよくなるはずですよ。

こういう話をすると、じゃあ防衛庁はどうするのかって、すぐに言う人がいるけれど、どんなルールにだってケースバイケースはあるんだから、国家の保安に関するものは国がやって、保安以外の業務は民間に渡せばいい。国の権限はなるべく少なくして、民間がやれることは民間がやればいいんです。

だいたい、ガードマンは泥棒を入らせないための予防をしてくれるけれど、警察が予防してくれるのは、一部のVIPの命だけでしょう。おかしいですよ。もし警察がわれわれの生活を守ってくれるというなら、予防だってしてくれて当然じゃないですか。それに、サービス業になれば忙しいなんて言わずに、下着ドロボーだって、きつとつかまえてくれますよ。(吉村作治)

つだと思います。反対しているのも、それができなくなるという

うのが、けっこう大きいんですからね。

のはどう？

高橋 でも、近所がみんな同じじゃ、つまらないじゃない。東京がなぜ面白いかというと、ヘンなやつがいっぱいいるからだもん。

天野 じゃあ、東京だけはいろいろいいことにする。

高橋 東京が出島なんだ。

(笑) いいねえ、それって二十一世紀を先取りしてるかも。(笑)

学校にスコレの精神を取り戻そう

天野 じゃあ、次は教育問題に行きますか。

高橋 義務教育の「三年」というのは、小学校一年から三年までと考えればいいんですか。

天野 でも、六歳で小学校に入るというのだから、たいした根拠はないじゃない。

高橋 いっそ高校まで義務教育にしちゃったら？ 好きなんだよね、「高校三年生」。あの歌、歌えなくなっちゃうじゃない。すみません、個人的な思い

出だけで。(笑)

高橋 誰にでも、失いたくないものはありますから。(笑)

高橋 僕は学校って、けっこう面白かったんですよ。校庭で相撲とったりね。昔はグラウンドに、ちゃんと土俵があったんです。

高橋 知らないなあ。

高橋 昔だったって、僕、明治生まれじゃないけどさ。(笑)

天野 高橋さんみたいに楽しく学校に行く人はいいけど、行きたくない人は行かなくなっているんじゃない？

高橋 そうだね。義務教育が関係ないかもしれない。

高橋 僕も、学校はあまり行かなかったけど、楽しかった。

天野 なんて行かなかったの？

高橋 面倒臭かったから。中学のときには、もうほとんど行ってませんでしたね。

高橋 いじめられたんじゃない？

高橋 違う違う。行かないでよそで遊んでましたね。花園神社でダフ屋やってたりして。別に

高橋 じゃあ、銀座と赤坂も一緒に行けばいいじゃない。(笑)

橋爪 それじゃ引越す意味がない。(笑) なんてアメリカでワシントンが機能しているかという、すべての代議士がニューヨークとは関係なく、自分の選挙区にいるからです。国会は自分の選挙区から出ていく場所に過ぎない。

それが、日本の場合は選挙区なんかどうでもよくて、政界実力者や企業と渡りをつけたら、金をもらったりしなくちゃならないから、東京でないとダメなんです。だから、遷都ができるかどうかは、リトマス試験紙のようなものです。

天野 じゃあ、遷都というより、彼らを東京から追い出すんだ。

橋爪 そうです、国民が。

高橋 追い出したと思うかな。

高橋 そんなこと、あんまり考えてないかもね。

橋爪 大企業にしても学校にしても、日本はみんな、上を向

いているんです。担当官庁があつて、見えないヒモが必ずついていてという感じで、役所が引つぱると、みんなクイッククイックと引つ張られてしまうという。そうやって、すべてコントロールされている。でも、本来政府の仕事だけだったら、理屈から言えば、いまや山の中でだつてできるんですけどね。

高橋 みんなお金の後を追って移動するんだから、お金が先に引けばいいんじゃないかな。いまみたいに東京にお金が集まっている上に、さらにネットワーク社会になっていけば、逆に中央集権国家化は進んでいくんじゃないかと思うけど。

天野 そうなると、アルプス型になるどころか――

高橋 もっと急な富士山になっちゃう。(笑)

高橋 東日本と西日本に分けたらどうですか。

高橋 JRみたいに？(笑)

天野 細かく分けて、一夫一婦制支持者は本州で、一夫多妻制支持者は北海道とかっていう

特殊でもない、普通の人生でしただけ。

高橋 どこが？(笑)

天野 じゃあ、中学を途中でやめちゃったの？

高橋 大学も出ました。

高橋 へえ、僕なんか、学校大好きだったのに高卒だよ。(笑)

高橋 出ることが重要であつて、教科書を読むことは大事じゃないんです。だから、大学なんて、入学してもみんな授業には出ないじゃないですか。でしょ？ 先生。

橋爪 出ませんねえ。

高橋 僕なんか、教室にいること自体が楽しかったけど。

高橋 僕は高校三年間で、最初から最後までいた日は、一日もなかった。お昼に行つて、昼メシ食つたら帰るという。

高橋 そんなこと、僕はできなかったもん。とにかく君と僕は正反対だね。(笑) 嫌われ者だったんじゃない？(笑)

高橋 そんなこと、ないですよ。中学のころは、コンピュー

タとバンドと女に明け暮れてました。コンピュータといえばマック、ライブハウスといえば福生、みたいな。

高橋 僕なんか、中学になつてから初めて、子供がどこから生まれるのか知つたのに。(笑)

高橋 田舎だと学校行くしかないけど、東京だと街に出たほうが面白いじゃないですか。

高橋 東京のどこで生まれたの？

高橋 葛飾柴又です。

高橋 だから、フーテンなんだ。(笑)

天野 僕は足立区です。(笑)

高橋 なんの話だろう。ふるさとめぐり？(笑)

高橋 要するに、価値観の問題だと思ふんです。勉強できないことがカッコ悪いと思えば必死に勉強すればいいし、学校というものに価値観を見出さないとだつたら、行かなくてもいいと思う。

高橋 でも、義務教育がどうとかっていうより、学校でホンワカしてる時期って、必要な



前のめりで提案するアマノさん

いつもクールなベシムさん

ひとりニッポンを睡るタカハシさん

マルチワルガキのタカハシさん

エジプトのヨシムラさん

マチダのアカセガワさん





じゃないかと思うんだけど。
天野 スクールの語源は「スコール」ですね。

橋爪 ええ。

天野 で、学校はゾクゾクするくらい面白いところだといふので、貴族の子弟ぐらしか行けない場所だった。そのくらい知識や学問というのは面白いものだったんですね。

橋爪 そうですね、古代ギリシャの場合。

高橋 だいぶ昔の話ですね。

天野 その学校がいまや企業戦士を育てるための効率第一主

義の場所になってしまっているけれど、そもその「スコール」を取り戻すような、いい方策はないものなのか。

橋爪 ただ、取り戻した場合一部の人は学校は楽しく充実したものになるけれど、大部分の人は結局学校に行かなくなつて、基礎学力のない人間が増える。そのことを容認できるかどうかですね。

高橋 みんなが楽しくなるのは、やっぱり難しいだろうなあ。

橋爪 ちょっとひとくさり、いいですか？

高橋 どうぞどうぞ。ひとくさりでもみくさりでも。(笑)

橋爪 私が調べたところによると、義務教育を発明したのはユダヤ人です。理由は、ユダヤ教は旧約聖書を毎日読むような宗教だから、誰もが字を読める必要がある。そこで、学校をたてて、教育を受けることを義務にしたんです。だから古代・中世・近世を通じて、ユダヤ人は字が読める割合が、きわめて高かった。字が読めても

農業にはあまり関係ないけれど、近代産業においては力を発揮するでしょう。科学だろうと物理だろうと数学だろうと法学だろうと、なんでもできてしまう。

近代社会の中で彼らが有能だったのは、そういう理由があったんですね。

そうした中で、しつかりしないと国の中枢を乗っとられてしまうというので、ほかの民族もあわてて真似をし始めたのが、義務教育が普及したきっかけです。

キリスト教も、初めは聖書を読ませなかったんです。それが、ギリシャ語の原著をルターがドイツ語に訳し、キング・ジェイムス版という英語の聖書もできたあたりから、聖書を読まなきゃキリスト教徒じゃないという感じになってきて——。だけど、英語のスペリングってめちゃくちゃでしょ。つづりを見ただけで、発音はわからないじゃないですか。

高橋 「SCHOOL」なんて読めないもんね。「シュール」かな、なんて。(笑)

橋爪 そう、「スクール」なら「SKUL」でいい。でも、いまみたいなスペルだと、学校に行かないと字が読めるようにはならないでしょう。義務教育というのは、要するに本が読めるかどうかなんです。

高橋 最低限字が読めればいいんだったら、確かに三年ですむかもしれない。

橋爪 ただ、日本人の場合、義務教育という考え方があまりピンと来ないのは、ひらがながあるからなんです。ひらがなだったら、それこそ一年もかからないけれど、英語はそうはいかない。

高橋 そうなの？

橋爪 どんな言葉も、一つひとつ単語を覚えていかなきゃなりませんから。中国語にしても漢字が四、五千ありますから、小学校に入ってたったかたつたか覚えていっても、高学年にならないと文章が読めるようにならない。途中でつまづけば、簡単に文盲になっちゃうんです。

高橋 でも、文盲でなければ

思いつかないこともあるじゃない。字が読めることで失うものって、ないですか？

橋爪 かもしれません。でも文盲だと、近代社会ではまともな職にはつけないですよ。人権を保障するためには、やっぱり義務教育がいるんです。

高橋 自分の名前がわからないとか、試験に受からないもんなあ。(笑)

橋爪 日本の義務教育にしても、最初は文盲をなくすためにあったんです。尋常小学校は四年間で卒業だった。だから、みんなひらがなは読めるけど、その先はけっこうあやふやで、あらゆる印刷物は総ルビだったんですね。

高城 あらゆる印刷物が総ルビ？

橋爪 あれはとてもいいシステムで、ルビのおかげで字の読み方を覚えて、いい大人になったものなんです。小卒でも、どんな小説も読むことができていた。

高橋 読めても意味がわからなかったりしない？

橋爪 まあね。でも、勘を働かせれば、そこそこはわかるものなんです。だから、総ルビを復活すれば、四年生ぐらいで義務教育は終了できます。

高城 そういえば、「ファミコン通信」とかゲーム本は総ルビですね。それこそ三歳ぐらいから読んだりするから。あつ、「少

年ジャンプ」もだ。

橋爪 総ルビは、コストの関係で廃止になったんですが、復活すべきだと思いますね。いまはコンピュータで、総ルビなんか簡単にできるんだから。

天野 総ルビなら、当用漢字なんてバカなものを作るのはないしね。

高城 じゃあ、義務は読み書きだけと言うことで。

天野 子供のいじめとか自殺って、オウムの影になってあんまり報道されなくなったけど、別に減ってるわけでもないでしょう。ああいうものを少しでも減らしていくためには、スクー

ルじゃない、スコールの精神を少しは取り戻さないとダメなん

じゃないか、と思う。

橋爪 ただ、義務教育の中でスコールの精神を取り戻そうというのには、どうしても偽善になりがちになる。義務教育が終了してからなら、可能だと思えますが。

天野 ということは、やっぱり義務教育は短くしたほうがいい。

高城 でも、どんなことをしても、僕はいじめはなくなるな

と思う。

高橋 だから、日本は世界のいじめられっ子国になって、いじめられっ子たちの模範になれ

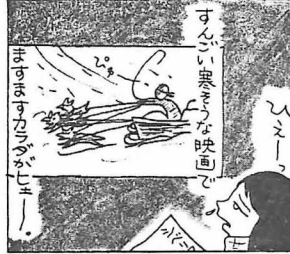
ばいいんです。

高城 しかし、いじめなんて昔からあったのに、なんで自殺



から、風野里郎

風野里郎の映画を観に行こう—



いそ—



で、本日は夏の映画に—



それはそれで—

10本連続ロードショー
デカローグ
1月20日より
銀座線京橋駅下車、2番出口上る
03(3535)6000
銀座テアトル西友



首都圏を一つのオフィスにしよう！

東京を遷都することに、僕ははっきり言って反対です。せっかくここまで整備され、公害だって一手に引き受けてきたのに、いままら首都をよそに移すなんて愚の骨頂ですよ。だったら、首都圏は動かさずに、人間だけを動かしてしまえばいいんです。つまり、人間は昼間働くだけで、居住は一切禁止する。

街全体を一つのオフィスにするんですね。午前〇時から午前六時まで、人間は足を踏み入れちゃいけないことにして、夜間は死の街にする。その間は人間だけじゃなく、クルマも営業車以外は入っちゃいけないことにすればいい。

その代わり、郊外から都心に入ってくる足の便は、しっかり整備します。タクシーも電車もバスも、いまいりずっと便利に、安く利用できることにして、都市全体をオフィスとして、徹底的に機能的にする。

これは東京だけに限らない。大阪も博多も札幌も、同じようにするんです。日本の中で、そうやって無人化する地域をいくつか作る。大都市ごとどこかに移して莫大なコストと労力をかけるより、このほうがよっぽどやりやすいし、合理的だと思いますよ。首都をまるごと移転したって、基本的にはなにも変わらないんですから。

ついでに言うと、APECだとかの首脳会談の場所を世界の都市で持ち回りにするのも、そろそろ考え直してもいいんじゃないですか。いろいろな場所で行うことが、その国を知らせることになるから、なんて言うけれど、じゃあ、大阪で開催されて、各国の首脳たちがどれほど日本のことを知ってくれたのか。厳重な警備に守られて、ほとんどホテルにカンヅメになってただけでしょう。だったら、安全が確保できて、市民生活に支障が生じたりしないところのほうがいいに決まっています。いつそ国連がどこか南海の島でも一つ買いつけて、そこで開けばどうですか。ジ・アイランド・オブ・ユナイテッド・ネーションとでも名づけてね。

(吉村作治)

するようになったらどう。
高橋 不思議だねえ。僕は基本的に、自殺って考えたことがないんです。なぜかっていう

と、死ぬのが怖いから。いまの子供って、恐くないのかなあ。それとも、死ぬ恐怖を上回るほどいじめが辛いのかなあ。

高城 いじめより自殺だね、問題は。

天野 いじめの辛さを超える面白さが将来待っている、とい

うイメージがないんじゃない？

高橋 僕もちょっとはいじめられたりしたけど、でも、自分には可能性があると思ってたも

んね。

天野 いじめられたことあるの？

高橋 うん。泣いた日もあった。(笑)

高城 気持ちよかったんじゃない？(笑)

高橋 いや、そのころはまだ未熟だったから、気持ちいいところまでは行っていなかったんだけど。(笑)

高城 いつからこんなになっちゃったんだろう。

橋爪 この十年くらいのあいだに、いじめの質が変わったんです。昔からいじめっ子はいたけれど、関係ないやつだっていっぱいいた。だけど、いまは学校全体がいじめの構造になっているから、誰かを血祭りにあげてクラス中でいじめるのが、一種のお祭りになってしまっている。だから自殺することで抗議しているんです。自分を破壊することでしか自分の存在を証明できない。

高城 デカダンな小・中学生が増えているのかな。

橋爪 不器用だとも言えるけど、でも、昔よりは確実に追いつめられていると思います。

高城 きつと吐け口がないんだね。会社だったら、チクショ

ーと思っても、帰りにテレクラ行ったりできるけど。(笑)

橋爪 大人ならいくつも時間と空間があるけれど、小学生には教室がすべてですから、逃げ場がないんです。自分がいじめられてるなんて、うちでは話せないし。

高橋 なんて話せないの？

天野 そりゃあ、子供だってプライドがあるもの。

橋爪 自立心のある子は、小学校でも高学年になったら、「いじめられてるから、お父さん助けて」とは言いませんよ。

天野 親には弱味を見せたくない。

橋爪 弱味を見せられる子だったら大丈夫だけど、プライドがあつて真面目で、というよう

な子が追いつめられちゃう。

高城 小学生の欲求不満をはらす場を作るっていうのはどう

ですか？ 学校とも塾とも違うような。でも、そういうものって、ゲームセンターじゃない気がするんだけど。

橋爪 子供は遊んでいれば、自然に欲求不満やストレスは発散しているものなんです。いまは遊べないから、それができない。

高城 忙しいもんね。みんなアポとかとってるし、うちの隣の中学生なんて、携帯電話持って「いま忙しいから」なんて切ったりしてる。(笑) いまは、アポなしで友だちの家に رفتたりしないし。

高橋 昔は行ったけどね、すぐに「遊ばー」とか言って。

天野 いまは「春男ちゃん」と遊べるのは、十五日の六時十五分から四十五分までね」とか言われちゃう。

高橋 しかも、「一カ月前に言ってくれ」とか。(笑)

天野 とにかく、教育制度そのものを変えないと、どうにもならないところにまで来てるんじゃない？

高城 制度の問題なのかな。

天野 それはあるでしょう。でも、もう一つは親の問題かな。

高城 小学生社会の構造の問題もあるかもね。昔は、放課後塾に行くやつもいれば、サッカーするやつもゲーセン行くやつも、家に帰ってテレビ見るやつもいた。時間的ゆとりもあったし、学校以外の友だちもいたけど、いまは友だちにしても、学校と塾以外には考えられないでしょう。しかも、学校でいじめられてれば、「あいつにいじめられてるんだぜ」という話が塾にまで回るような、独特の情報システムが子供たちの社会の中で構築されている。それが、子供の逃げ場をなくして自殺に追いこんでいるんだと思うんだ。

天野 文部省の諮問委員会の答申を見たら、「いじめっ子は登校させないようにしよう」とか、そんなことばかり言ってる。なんてバカなこと思うんだけど。

高城 僕なんかはいじめっ子よりもっとアブナイ小学生で、放火魔だったから、ムカつくどゴ

犬猫を街に充滿させる！

うちは猫を飼っているんだけど、外にも野良猫がいる。世の中には猫を捨てる悪い人間がいるから。庭なんかに来るとけつこう可愛いかったりして、つい食べ物をあげる。そのまま居つくつと飼猫になるので、ときどき知らん顔をする。ほどほどに可愛がつてほどほどに放つとかなきやいけないんだというところが、野良猫とつき合うとよくわかる。

野良の犬猫は、あちこちにウンコをしていやがられたりするけど、実は、アトピーとかいうのは清潔にすぎた結果、人間の免疫機能の働き場所がなくなつて出てきた病気だといわれる。となると、街に犬猫を充滿させて、糞尿を自由化すれば、アトピー患者が減る。

だから、「犬のウンチ禁止」なんて張り紙もしちゃいけないことにしたらどうだろう。

人間は、ついつい自分の頭を信頼しすぎるんですよ。僕なんかもううちの犬に犬小屋を作つてあげたら、結局、一晩寝ただけで、あとは全然入つてくれなかった。せっかく作つてやったのにつてこつちは思うけど、でも、犬には犬の気持ちがあるわけで、それは人間の理屈の傲慢だ。

考えようによつては、思い通りにならないものと一緒にいるというのは、なかなかいいものなんです。猫のおかげでうちなんか障子も柱もボロボロだけど、そのうち「まあ、いいか」とあきらめがついてくる。こういうときに「俺び」や「さび」は便利な言葉で、「ああ、なかなか俺びてるなあ」と思えばずいぶん気がラクになるんです。そうやって犬猫は、人間をおおらかにしてくれる。これも修行だと思えばいいんです。

(赤瀬川原平)

ミ箱に火のついたマッチを投げて、パツと逃げちゃつた。

高橋 それって、犯罪者じゃないか。(笑)でも、子供つてやるよね。オレも障子に火をつけたことがある。(笑)

高城 でも、自分が死ぬくらいなら、僕以外の全員を焼き殺してやるとかつて、普通は思うものなんじゃない？

高橋 それは君独特の考え方だよ。(笑)

天野 学校の先生というのは芸人じゃないといけないと思うんです。知識を学ぶつてこんな面白くないものなかと、生徒に感じさせないといけない。そうした意味で、学校にもいろいろ

と問題はあるんだけど、その一方で「もつと怒つてくれ、厳しくしてくれ」と、自分では何もしないで先生にだけ注文する親にも問題はあんじやないか。親が親の役割を果たしていかない

のは、意外に大きいと思うんだけど。

高城 僕は子供がいらないからわからないけど、子供の生命力つて、年々薄れてないですか？僕「アジア・バグース」という番組が毎年やつてる夏休み子供大会の審査員をやつてるんだけど、日本とシンガポールとインドネシアとマレーシアかな、そのあたりの子供たちが集まつて歌を歌うわけ。で、司会のお兄さんが「将来何になりたいですか？」つて聞くと、日本やシンガポールの子供はお嫁さんだとか弁護士だとか言うんだけど、マレーシアやインドネシアの子供は「絶対に歌手になる。ひと儲けてやる」。小学生なのにすごい生命力があるわけ。たぶん生命力つて、GNPと反比例して、安定して豊かになればなるほど弱くなるんじゃないかな。

高橋 年寄りが産んだ子供だから、いまの子は生命力が弱いんだ。(笑)

高城 それつて精子が弱いつてこと？

高橋 日本人全体が老人化して、衰えているんです。子供のときから老人だもんね。だから「もういいか、寿命かも」なんて思つて死んじやう。違いますか？先生。

橋爪 老人というより、私は家畜に似ているんじゃないかと思ひます。閉じこめられて、食べさせられて、時間と空間を完全に支配されている。これは、どんなにいい生活をしていても家畜と一緒にしよう。

高城 ワイルドに行こう、これが小学生の目標だね。

橋爪 私が子供のころは、同じ遊ぶのでも、親の目の届かないところで遊んでいたんです。親はどんなことをして遊んでいるのか知らなかったけれど、その代わり、やつちやいけないこととかこれは危いとか、遊びのルールがきちんとあった。

高橋 いまも高校生とかはすごいらしいですよ、親の目の届かないところで。

天野 意味が違う、意味が違います。(笑)

橋爪 子供としての文化が、小学生の間は完全に欠落して、親の目の届くところで管理されて遊んでいるんです。

高城 その反動が、ああいう高校生活を生むんですかね。

橋爪 それはあります。だから、親たちはあえて、自分の目が届かない場所を作らなくてはいいけない。

学校について言うと、いまは決まつた学校に行かされて、組分けされて閉じこめられる。それをまつたく自由にしたらいと思ひます。学区なんて、いいないんですよ。昔みたいに歩いて四里とかいうんだつたら選択の余地がないけど、いまだつたらどこにでも行けるじゃないですか。だつたらどこに行つてもいいということにして、いじめられたりいやになつたら学校を変わればいい。

高城 文化にしても、いまはサブカルチャーもアンダーグラウンドも表に出てしまつたから、もぐるような裏がないんです。家の周りにも、昔は抜け

道とかいっぱいあったけど、いまは宅地も整備されて、ほとんどなくなつています。

高橋 アンダーグラウンド版小学校を作つて、そこは義務教育という形で教育は受けられないけど、裏の社会で生きるための教育はしてやるぞ、ということにすればいい。

高城 港区暗黒小学校。(笑)

高橋 おまえはもう表の社会に出ないでむそつて。

橋爪 まあ、山口組付属小学校みたいなものが仮にあつたとしても、字ぐらひは読めないといけないですからね。

高城 僕が小学校のころは、花園神社行くとシャブ打つてるおじさんとかがいて、「打つか？」つて言われたりしたけど、そんなこと、いまはないでしょう。

高橋 打つたわけ？

高城 打ちませんよ。注射なんてあんな痛いもん、なんで打つのかわからなかった。打つたあと吐いてる人とかいたし。

高橋 そうか、君はうさぎを追つたことがないんだ。(笑)



天野祐吉のCM天気図

晴のち雨編

朝日新聞長期連載中の名物コラム。世の中の動きや時代の雲行きを、CMという小さな窓からユーモアに風刺を混じえて「観測」する。

朝日新聞社

●お求めは書店、ASA(朝日新聞販売所)で。

(笑) 橋爪 真面目な話、弱い子だつて生きていかなきゃいけないんだから、そのためには学校と塾のどっちがマシかと考えたとき、私は塾はけっこういいんじゃないかと思うんです。なぜかというと、行きたい人だけ行つて、来たくない人は来ていないから。

高城 でも、ほとんど行つてるでしょ。

橋爪 でも、行きたくなければ行かなくてもいいんだという前提がある。いざとなれば逃げられるから、追いつめられないし、いじめもない。

高橋 塾だといじめられないの？

橋爪 あつても、非常に少ない。だから、学校が塾になればいいんです。いまや学力は塾でつけてるけれど、でも、本来学校の目的は学力をつけることにあつて、しつてとか挨拶とか友だちと仲よくなるとか、そういうことにあるんじゃないんですから。

高橋 しかし、いまの学校の生活つまらないだろうな。

橋爪 私もそう思います。卒業して、ほんとによかった。

天野 高城さん、国家は少ないという立場からすると、家族というのは必要なの？

高城 家族はいるでしょう。血は否定できませんから。

天野 でも、犬だって、一緒

に暮らしてれば家族じゃない？

高橋 犬も血統は大事だもんね。

高城 意味が違うって。(笑)

高橋 でも、犬も血がつながつてるんじゃない？ 大事なものは、ずーっと一緒に生活してきた時間なんだから。

高城 でも、「うちの親」とか「うちの娘」って、要するに血だつて気がすくするんだだけ。

天野 そんなもの、なくなつていいじゃない。

高城 うーん、血は否定できないです。

高橋 マフィアか、おまえは！(笑) 僕はすごした時間だと思ふなあ。

高城 いや、血だ。(笑)

高橋 思い出とかき。郷愁なんかもそうだけど。

高城 いい人だなあ、高橋さん。(笑)

天野 でも、三十年連れ添った女房と、簡単に別れたりするじゃない。

高橋 そういうのって、どういう人なんでしょうね。僕にはとても考えられませんけど。(笑) まあ、思い出も血も、案外同じようなものだったりして。

高城 違う違う。血は切れないもん、思い出は清算できるけど。

高橋 言っとくけど、僕は思い出清算したこと一度もないよ。

高城 女性が付き合うなら、高橋さんみたいな人を推薦しま

天野 柴又はうさがいないんです。

高橋 うさがじゃなくて、寅さん追つたりして。(笑) 君は生命力が強いから、何やつたつて生きのびるけど、問題は生命力の弱い子なんです、僕みたいな。

親は子供の売春を悪いと言う権利がある

天野 高橋さんのところの子供はいくつなの？

高橋 九つ。男の子だけ。

天野 女の子がいたとして、高校生になってその子が売春したらどうする？

高橋 最初の客になりたい。(笑)

高城 おいおい、すげえ親父だなあ。

高橋 でも、実際の話、十五すぎたら親から離れてもいいんじゃないですかね。

天野 橋爪さんがどこかで「売春を悪いと言え論拠はどこにもない」と書いていて、とても

印象的だったんだけど、実はそのことについては、僕も前から考えあぐねていたんです。

高橋 でも、親だったら言いますよ、ダメだつて。

高城 お金のためにやるのがいけないんだけど、でも、だからって、「お金のためじゃなくて、付き合ってるの」って言うなら、それはそれでいやだらうな。なんか納得できない。

高橋 親っていうのは、理屈じゃないんです。あの野村監督だつて、ボンクラ息子を自分のチームに入れちゃうんだから。

橋爪 親の立場と一般論が違ふというのは、大変なことだ。で、売春が悪いといちがい言えなくても、親には「悪い」と言う権利がある。そのことに、理由はいらないんです。オレは親だ。オレは悪いと思う、それでいい。そう言ったほうが子供ののためにもなるんです。だから、あれこれ考えてる間に怒つてしまったほうがいい。

高城 隣の娘の売春はいいんだ。

高橋 隣の娘の売春には、お客になつたりするから。(笑) 自分のうちの娘だつたら、こんな親でも言いますけどね、「やめろ」つて。

高城 でも、「付き合ってるの」って言われたらどうします？

高橋 付き合うんだつたら、オレと付き合え。(笑) 教育つて、そういうもんですよ。

高城 とにかく、金のためにやるという価値観がいけないんだね。

橋爪 でも、その金でなにかとても大事なことをやるとしたらどうですか？ 昔だつたら、病気の親の薬代のために身を売るなんて話は、よくあつたでしょう。いまだつて、すごい大志を抱いていて、資本金は自分のためようと思つてるかもしれないじゃないですか。

高橋 そうだなあ、悪くないなあ。(笑)

天野 橋爪さんによれば、それを認めちゃうと、家族というものが崩壊してしまう。女房や娘がそういうことを適当にやっ

ていいことになったら、家族の意味がなくなってしまうというね。

高橋 いや、そういうことも踏み越えていくのが家族というもの。ほら、たいがいのホームドラマって、いろいろあるけど最後には、昔のことは忘れてもう一回やり直そうつてことになるじゃない。(笑)

編集部 いじめの問題はどこかに行つてしまいましたね。

高橋 いじめなんて、ヤクルトでも飲んで、強い子作ればいいんです。

高城 ミロでしょ、それは。



義務教育を廃止しよう！

義務教育という考え方は、いわば発展途上国のもの、教育というものの重要性をわかっていないからこそ必要だったんですね。だけど、いまの日本は過熱状態と言えるくらいみんなが教育に関心を持っているんだから、もはや義務にする必要なんてない。

学制にしても、いまの六・三・三・四制は改めたほうがいいですね。小学校はいいとしても、中学・高校と同じようなことを二度続けてやるのはおかしいですよ。だったら、中・高を合わせて五年制にして、代わりに大学を五年制にすればいい。大学の勉強は、本気でやろうと思ったら四年間じゃ無理なんですから。教員も、小学校も大学も垣根をとばらしたらいいんです。大学でも教えられるし、小学校で教えてもいい。いまだと、小学校の先生は自分の専門から離れてしまうし、逆に大学の先生は専門だけの世界に閉じこもりがちになる。そのあたりをフレキシブルにやれるようにするためには、教員はプール制にするのがいいんです。公立・私立なんて分け方もやめて、学校法人

という特殊法人を設立する。教員は全員そこに登録されていて、随時そこから各学校に派遣されていく。しっかり勉強している人には道が開け、ちゃんとやらない人は元のプールに戻される、教師の世界こそ、そんなふうになるべきですね。

教科書も全廃したほうがいい。教師なら、自分が教える教科書くらい自分で作るべきですよ。僕も、ちゃんと自分で作ってます。国は教科書作成の費用を援助してくれればいい。このシステムなら、自分なりの哲学や思想、言葉を持てない人は、自然に先生になれなくなるでしょう。そうやって、教師を職業化しないことが大事なんです。

そんなふうに、義務教育をなくすこと、教科書をなくすことから始まって、すぐに変わらなくてもいい、十年計画でもいいから、教育を抜本的に改革すること考えるべきですね。日本というのはいつも、アメリカがどうだとかドイツがこうだとか、外国の真似ばかりしたがるけれど、日本もここまできたんだから、他の国なんかどうでもいいじゃないですか。むしろ、前例がないような積極的な改革をして、「ああ、日本はすごい教育制度を作ったもんだなあ」と、世界中を感心させればいいんです。

(吉村作治)

す。(笑)

高橋 なんかワケがわからな

くなっちゃいましたね。こういうときは、先生にまともしてもら

おう。先生、家族って必要なんですか？

橋爪 いまのところ、家族以外に人間と人間が責任を持ち合

う方法がないんです。子供のときは誰かに育ててもらわなくてはいいけないし、年をとっても誰かの手を必要とする。当番制にして、「あなたはおじさんの面倒を見なさい」とか、そういうやり方にしてもいいけど、それも人為的だとなかなか抵抗があつてやりにくい。手がかかる子供だけと自分が産んだから、ヘンな亭主だけと自分が選んだから、年とつたけど親だから、そんなふうには思えば、自然に我慢することが出来るわけ。

高橋 やっぱり思い出だ。橋爪 というか、瞬間ごとに考え直しては現在を生きっていくわけだから、単純な思い出でもないんです。

高城 やっぱり、血も入ってる。高橋 血の混じった思い出。なんか恐いなあ。(笑)

橋爪 家族は親子と男女のペアでできているわけですが、そのうち男女のペアは選べるんですね。人為的に作る事ができる。そして、そのときに、性は

選択のための重要なファクターになるんです。それなしで、男女が選べることはいい。だから、その性を金に換えていいのか、つまりお金さえあれば誰でも、ということになると、大きな矛盾が起きることになる。

お金に換えるのは可能だけれども、そのことと家族とは水と油の関係なんですね。性を大事にしていないのは、家族を大事にしないということになる。

天野 こ七七、八年、家族論というのには不毛なんです。なにが家族をつなぎとめているのかわからなくなってる。かつては家族の社会的機能を性の安定機能、経済的機能、教育的機能、文化的機能なんて分けたりしてたけど、そういうものって全部外化されていなくなっちゃった。高橋 だから、結婚しない人って多くなりましたね。しなくてもすむから。(笑)でも、僕はすまなかったんだ。「だーもすみません」なんて、オレは三平かつて。(笑)

高城 アハハハ。それはどう

して？

高橋 やっぱり家族を形成したいっていうのがあつたんだと思う。自分も家族に育てられた楽しい思い出があつたから。

天野 高城さんは結婚する気あるの？

高城 ありますよ。

高橋 君は、もてないんだろ。(笑)

高城 いや、そんなことないつすよ。

天野 もてそうだね。

高城 もてるから、結婚できないんです。(笑)

編集部 「パソコン直接民主主義」については、どう思われますか。

高城 理想の形ではありますね。いまの投票の方法じゃ、行けない人も多いんだし、どのみち変えたほうがいい。だけどどうせコンピュータを使うなら、投票もそうだけど、情報公開制度も変えたほうがいいんじゃないかな。いまは僕は情報を受けるだけだけど、コンピュータなら双方向だから、こちらが

言ったことに対して向こうから答えを返してもらうことだってできる。

高橋 直接民主主義になったら、何が変わるんですか。

橋爪 議会と代議士がいなくなるんです。ただ、結論からいうと、私はこの案には、あまり賛成ではありません。なぜなら、まず第一にコストがかかり過ぎる。それに、なにか問題が起こるたびに、日本中の人が討論を開き、よく考えた上で投票しなくてはならない。初めの何回は民主主義をよくするためだと思つて真面目にやるかもしれないけど、早晚チャランポランになつてしまふでしょう。四年に一回くらいだったらいけど、毎日となつたら、まずまともな投票は期待できません。

天野 じゃあ、国民投票制は重大な問題だけにします。

橋爪 そういう方法はありますね。ただ、問題はもうひとつあつて、しばしば不合理な結論が出てしまうんですね。多数決でやれば一番いいものが残ると

思うのは間違いで、ときには実行不可能な結論が出てしまう可能性が高いんです。

高橋 代議士制が結論を下したもので、相当ヘンなことが起こるじゃない。

橋爪 それでも代議士はプロですから、たとえば福祉社会を作れば予算がいる、そうすれば税金は高くなりやいけないとか、どんな代議士だって、そんな最低限のことぐらいはわかってるから、不合理な結論は出にくくなる。それに、なんといつても、出した結論に対して責任をとるのは自分たちですから。

天野 やっぱり、代議士の質をよくするしかないんだ。

橋爪 私はそれで行くべきだと思います。

天野 質はよくなるかな。

高橋 ならない。オレたちの質がよくなるから。(笑)

高城 世論調査なんかでも、パソコン使えばいまよりずっと多くのリサーチができますね。

橋爪 それはその通りなんです、世論調査の問題点は、責

任をとらなくてもいいことなんです。だから、選挙の直前の「あなたは誰に投票しますか」という調査は非常に問題がある。

責任をとることを考えずに自分の好みで答えた結果が発表されて、それによって投票行動が左右されるわけですから。だから重大な決定に影響を及ぼすような無責任な世論調査は、投票前の一定期間禁止すべきです。

高橋 やっぱり自衛隊をなくすことでしょうか？

高橋 世紀末まで、ギリギリのよう

つかり反応できるような。橋爪 核実験に反対する確実な方法というのは、私は考えたことがあるんです。核戦争が始まったら、まず一発目を自分たちで東京に落とす。また始まったら、今度は大阪に落とす。そうやって、日本は核戦争の進行とともに、どんどん壊滅しちゃう。本気で核戦争を阻止しようと思ったら、そのくらいの覚悟を決めなきゃダメですよ。どうせ撃ち合いになれば敵のミサイルで全滅しちゃうんだから、それだったら自滅したほうがカッコいい。これは美学の問題としてね。それだけのことをやると宣言しておいて、「おまえら核戦争をするな」と言えば、迫力が全然違うわけでしょう。こっちはダイナマイトを腹に巻いてるようなものなんだから。

世界に先駆ける 実験国家になろう

編集部 ほかにもなにか、こんなことをやったら日本はもっとよくなる、というアイデアは

高橋 究極の自衛隊つてできないものかな。外国には出ないけど、なにが起きたときにはし

高橋 軍隊をなくしちゃうのも、同じことだよ。

義ですか？

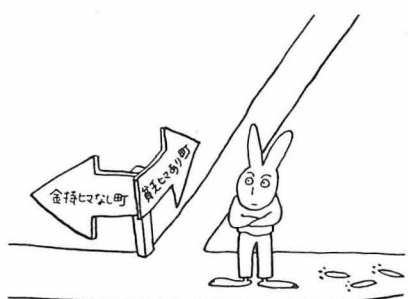
高橋 というか、覚悟だけはしておいて、いざというときが来るまでは、楽しく暮らす。だいたい、なにか起きるかどうかって、五分五分じゃない。案外そのまま幸せに暮らしてられるかもしれないだし。

橋爪 ただ、自衛隊をなくすと、世界中から外国人や難民がドツと押し寄せるでしょうね。いまは入国管理局が、インチキなパスポートを持っていたりすると追いついてますが。

天野 いまだって、軍事力で追いついてるわけじゃないじゃない。

橋爪 でも、ワーツと来たときに、撃沈して追い返すことができる、五百人だろうと千人だろうと海のもくずになっても知らないぞ、という強硬手段をとれるかとれないか、ということはあるかですね。現に韓国なんかは中国から難民の船が来ると、銃撃して追い返したりしてたじゃないですか。

高城 やっぱり究極の自衛隊



天野 核を持ってる自衛隊なんて、どう？ そんなの、世界が認めないだろうけど。(笑)

高橋 じゃあ、核はなくてもいいから、ちよつとしたもの。

高城 VXガスとか。(笑)

高城 大和魂とか。

高橋 すぐ駆逐されますよ。

高城 すごい病気とか。

高橋 性格が悪い女とか。

高橋 女になっちゃう病気とか。(笑)

編集部 止まらなくなっているの、次に行きましょう。(笑)

天野 だいぶん前になるけど、

宮沢さんが首相だったころ、「生活大国五カ年計画」というのを出しましたね。宮沢さんというのは、好き嫌いは別にして、歴代の首相の中ではなかなか頭がよかった気がするんだけど。

高橋 僕はそうは思わない。

天野 「生活大国五カ年計画」というのは、お金は入ってこないけど、労働時間を減らしてみんなをヒマにするって話だった。

高橋 やだなあ、僕の真似しちゃって。(笑)

天野 つまり、「金持ちヒマなし国」から「貧乏ヒマあり国」へ引越そうというのが、この計画なんですよ。

高橋 普通は「貧乏」と言ったら「ヒマなし」じゃないの？

天野 いや、それが違うの。

高城 日本人気質に合うかなあ。ジャマイカ人は、いまでも「貧乏ヒマあり」だけ。

天野 でも、このライフスタイルの先例は、江戸時代のわれわれの祖先が持っていたんです。貧乏といっても食うに困る

わけじゃなくて、毎日ちゃんと暮らしていくための最低の金はあって、それ以上はあくせく働かずに、面白おかしく遊んで暮らしてた。そういうのって、いやですか？

高橋 いやじゃないけど、そのころの日本は鎖国して世界と関係なかったから、それでできたところもあつたんじゃないかな。

高城 ここまで来たら、そう簡単に生活レベルは落とせないと思うけど。

天野 でも、これからは、いままでと同じようにお金は入ってこなくなる。

高城 そしたら、いままでよりもっと働いて、生活レベルはキープするんじゃない？

天野 じゃあ、ますますヒマがなくなっちゃう。(笑)

橋爪 私が思うに、世界の最大の問題は、人口問題なんです。人口というのは一種の情性で、どうしてもみんな昔ながらに結婚したり子供を産んだりするから増えていくんだけど、こ

恩赦を廃止しよう！

恩赦で刑がどんどん軽くなっていくなんて、おかしいですよ。もし恩赦がどうしても必要なら、その刑の執行期間の間に恩赦が何回あるかを計算して、その分を加算すべきです。それに、恩赦で一番トクをしているのは、公民権を剥奪された、つまり選挙違反者なんです。極端な言い方をすれば、恩赦は選挙違反者のためにあるようなもの。いまでも目に余るから、昭和天皇が死んだときには、選挙違反は恩赦の対象からはずそうという意見が出たくらいだった。憲法で定められた三権分立を、恩赦は無視しているんです。恩赦を行うのは行政だから、言ってみれば行政が司法の権利を侵していることになる。民主主義の原則が、ここでは踏みこじられていくんですよ。(吉村作治)

の情性を脱する道をいかに探すか。日本は女性の出生率が一人当たり一・五人ぐらいで、ドイツあたりはもっと低かったりしますが、そんなことでは生ぬるい。私は一世代で人口を十分の

一にしてしまう可能性を、このさい真剣に追究すべきだという結論に達しました。高城 それは日本だけが？ それとも地球レベルで？ 橋爪 まず日本が率先してや

るんです。なぜなら、この小さい島にいたのはもと三千万人くらいで、そのくらいがちょうどよかったのに、いまは一億二千万人もいてギョウギウウ状態でしょう。だけど、十分の一計画を実行したら、ある段階では老人ばかりになって、若年労働者がいなくなる。そのぶんは当然機械化しなくては行けないわけで、こうした実験をするとしたら、日本は最適じゃないですか。だから、日本は進んで実験国家になればいい。高橋 具体的には、どうやって十分の一にするんですか。橋爪 いろんな方法がありまして、クジ引きとか。高橋 クジに当たったら、子供はなしなんだ。橋爪 あるいは、思想運動として、子供を作るのをやめようとか。天野 みんな精子は提出してしまおう。高橋 チンチン切るとか。(笑) 高城 国民総パイブカット。(笑)

天野 いまの政治家というのは、少子化傾向を非常に憂いていて、人間が減り続けると国がたちゆかなくなると言ってますね。橋爪 問題になるのは生産性でしょう。でも、生産性というのは人数じゃなくて知力なんだから、いくらでも工夫のしようはある。むしろ日本は、積極的にそういう国になるべきだと思います。十分の一で一千二百万人。その先さらに百二十万にすれば世界中が見習いますよ。天野 「ウルトラQ」かなにかに八分の一計画というのがあって、それは人間を八分の一のサイズにしちゃうんだけど。橋爪 私もそれは考えたんですが、重力がそのままなので困るという問題があるし、ほかの動物がこのままだとすれば、いまはなんでもないけれど――天野 猫に踏みつぶされちゃう。(笑) 橋爪 すべての動物には、やはりその動物に合った合理的な大きさがあるので、ちよつと無

理だと思っています。

高城 大きい人と小さい人を作って、小さい人は大きい人の胸に入ってるのはどう？ 高橋 カンガルじゃないんだから。(笑)

天野 八分の一は無理でも、二分の一ぐらいだったらなんとかならない？ そうやって、世界の小人国になる。高橋 ガリバーじゃないんだから。(笑)

橋爪 私が理想的だと思うのは、古代ギリシャですね。ギリシャにはアテネとかスパルタとか、すぐれた国がいろいろあるけれど、人口はせいぜい五万人ぐらいだったんです。それなのに、あの天才の輩出のされ方のすごいこと。立派な文化国家を形成していた。いまの日本なんて、一億二千万人いても、みんなボンクラで、ろくな文化がないでしょう。

ギリシャの生産性の高さは、生活をフルに楽しみ、自分の才能を全面開花させるところからきているんです。それがあれば写真協力：共同通信社/JTBフォト

人数が少ないことなんて、ちつとも問題にならない。天野 江戸だって、あれだけ少人数なのに、絵描きや役者がいっぱいいたんだから。高城 でも、それはその時代の話であって、パワーバランスから見ても、いまは無理なんじゃないですか。橋爪 いやいや、むしろいまは、テクノロジーと生産性の勝負なんです。自衛隊なんて、極端な話、ロボットでいい。高城 だけど、人が減れば、内需は拡大しないよね。橋爪 一人ひとりの生産性が向上していけば、GNPは少なくなっても、一人あたりの所得はワーツと伸びて、結果的に豊かになっていくんです。空っぽになった家には外国から人が来て、彼らの労働力がさらにプラスになる可能性だってあるし。しかも、子供のいない老人が増大すれば、日本国家は必死で老人や身体障害者が生きられる社会を作るでしょう。それは普通の人にも生きやすい社会だし、

そうなったら、世界中からも注目されますね。だから、子供が少ないことなんて、まったく恐るべからず。高城 僕は、日本から日本人がどんどん出ていっちゃえばいいと思う。高橋 華僑みたいに？ 高城 そう、客家と同じ。高橋 オレは残るわ、悪いけど。(笑) だけど、人数が十分の一になったら、頭のいい人間も十分の一になっちゃうんじゃない？ 橋爪 教育が行きとどくから大丈夫です。天野 数が多ければ、優秀な人間が多いとは限らないもの。日本だって、人口は昔よりずっと増えたけど、優秀な人間が増えたとは言えないんじゃない。高橋 バカは増えたね、確かに。高城 バカは日本を出て、世界に飛び火すればいいんだ。(笑) 天野 バカを輸出する。(笑) 高橋 バカは出てけ！ だつたら、オレがまず行かなきゃ

らないじゃないか、パスポートもないのに。(笑) でも、利口なやつのほうがバカよりいいって論理もおかしいんじゃない？ 利口な人間が社会を支配してるからアブないんであって――天野 じゃあ、バカが支配するわけ？ 高橋 そりゃあ、もっとアブナイでしょ。(笑) もっと面白いかもしれないけど。高城 日本じゃバカでも、ジャマイカ行けばエリートだ。高橋 ちよつと君、それって差別発言じゃないの？ 高城 だって、ジャマイカ人は働かないけど、日本人は勤勉だもん。高橋 そんなに働きたいならドレイになれって、ドレイにさせられたりして。(笑) 高城 ああ、僕は狭い日本より、広いジャマイカでエリートになりたいよ。高橋 ハイハイ、さっさと出ていきなさい。誰も止めないからさ。(笑)